

成果報告書

1 大学等名	広島経済大学	
2 教育研究活動	区分	⑦地域におけるにぎわいの創出
	テーマ	道の駅の利用促進に向けた課題分析と実証事業
3 連携した市町	三原市（道の駅三原神明の里）、安芸太田町（道の駅来夢とごうち）、東広島市（道の駅西条のん太の酒蔵）	
4 連携した企業、団体等	国土交通省中国地方整備局、東広島市役所、広島国道事務所、ランドブレイン（株）広島事務所、（株）長大（社会創生事業本部）	
5 参加学生	経営学部経営学科:3 回生（10 名）	
6 活動の内容	<p>【2022 年】</p> <p>7 月 10 日(道の駅のん太の酒蔵)：オープン前実習</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真1 オープン前の商品陳列 写真2 オープン前の商品陳列</p> <p>7 月 16 日(道の駅のん太の酒蔵)：オープン直後店舗実習、アンケート調査</p> <p>7 月 17 日(道の駅のん太の酒蔵)：オープン直後店舗実習、アンケート調査</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真3 遊戯場の受付 写真4 アンケート調査</p>	

8月23日(道の駅三原神明の里)：店舗実習、アンケート調査

8月24日(道の駅三原神明の里)：店舗実習、アンケート調査



写真5 移動販売の同行



写真6 アンケート調査

8月25日(道の駅スパ羅漢)：職員の方がコロナ陽性のため中止

8月26日(道の駅スパ羅漢)：職員の方がコロナ陽性のため中止

8月27日(道の駅来夢とごうち)：店舗実習、合同調査、イベント



写真7 スーパーボールすくい



写真8 祇園坊柿の試食会



写真9 野菜釣り



写真10 合同調査

9月15日：学内中間報告会

11月25日：広島県道の駅連絡会幹事会での報告会



写真 11 広島県道の駅連絡会幹事会

【2023年】

2月10日：広島広域都市圏協議会での報告会



写真 12 広島広域都市圏協議会

7 活動効果

本活動は、地域の核となる「道の駅」に着目し、店舗実習・現状調査および実証事業を実施することにより学生視点で新しい道の駅のあり方の提案を行うことを目的に活動した。

①アンケート

- ・アンケート調査では、3か所すべての道の駅において50代以上の中高年層の利用者が多いことが分かった。
- ・道の駅西条のん太の酒蔵では、オープン直後に加えて、屋内の遊戯場があることから子供連れの利用者も多かった。

②店舗実習

- ・商品の品出しやレジ打ち、移動販売に同行することで店舗実習を行い、商品と関わることで道の駅それぞれの特産品を知ることができた。
- ・業務に携わることで道の駅の抱える課題（※）を肌で感じ取ることができた。

※週末など人気エリアである子供向け広場での混雑回避など、想定される懸念への対策と運用方針の見直しの必要性や陳列の配置など利用者目線での対策の必要性とブランド化を広めるための方策案の必要性など

③イベント

- ・事前のヒアリング調査で行っていた祇園坊柿の知名度が低い課題について、試食会を行うことでジャムが完売するなど知名度の向上に貢献できた。
- ・子供連れの家族をターゲットにイベント内容を決定し、実施したが野菜を求めた高齢者も多く参加されていた。
- ・イベントの満足度は高く、7割以上の方が再度開催されたら参加したいと回答した。
- ・道の駅来夢とごうちでは若者の利用者の割合がやや高かったことから、イベントの有効性があることが分かった。

④本事業におけるイベント実施後に調査を行った結果、7割以上が再度開催時には参加したい意向があることがわかった。また、今後のイベントへの期待として、地元野菜を使ったフードフェスなどへの期待値が高く、若者視点での地域活性化に向けた「ご当地グルメ」や「地域特有の土産物」などの施策が有効であることがわかった。

- ・今回の事業では、主に店舗業務などを中心とした活動を実施したが、地域の農家などの生産者との関わりも大きく、生産から販売に至るまで地域が一体となって活動することの重要性を学ぶことができた。こうしたことから、地域の核となる道の駅を通じて、販売活動だけでなく生産段階から関与し新たなブランド提案や来訪者促進に向けた取組み提案を行っていきたいと考える。